

令和4年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立山王小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・専科とALTで見本を示すことで会話の流れをイメージできるようにした。また、全体で繰り返し発話してから、友達との会話で学習した表現を使えるようになってきた。
- ・ICTやALTを活用して、音声をたくさん聞くことで、英語で表現しようとする意欲が見られる。
- ・相手に伝わるように、学習した言葉や表現を使って発表できるようになってきた。

(2) 課題

- ・「アルファベットの書き」について、文字を識別したり、正しく書いたりすることにやや課題がある。
- ・ALTの言うことを聞いて、意味を理解することは概ねできるが、発話を通して自分の伝えたいことを表現する力に課題がある児童が少数いる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

\*第6学年のみ実施

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年			
第5学年			
第6学年	<p>校内平均正答率は目標値を6ポイント、区の平均正答率を3.5ポイント上回っている。</p> <p>領域別でみると「聞くこと」は、目標値を7.5、区を4.5、全国平均正答率を0.9ポイント上回っている。「読むこと」は、目標値を5.6、区の平均を1.4ポイント上回っているが、全国平均は1.5ポイント下回っている。「書くこと」は、目標値を4.6、区を3.7、全国平均を0.7ポイント上回っている。</p>		

(2) 分析 (観点別)

①第5学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○昨年度までの既習事項は概ね理解しているが個人差は見られる。</p> <p>○長い英語の音声に慣れてきて、内容を理解しようとする姿が見られる。</p> <p>○児童は、自分のことについて伝える表現 (好きなこと、持っているもの、誕生日、できることなど) の音声に慣れ親しみ、繰り返し発話している。</p> <p>○アルファベットに関しては、音と文字は一致している児童が多いが、書く位置が正確でない児童もいるので、スモールステップで定着を図る必要がある。</p>	<p>○友達に自分のことをさらに知ってもらうために、1学期の最後に自己紹介をする単元を行った。4年生までに学習した表現や新たに学習した言葉や表現を用い、内容や順番を考えたり、相手に伝わるようにする工夫を考えたりして、学習に取り組む児童も見られる。</p>	<p>○学習の振り返りでは、できたことや分かったこと、気付いたことなどを書いている。自分の課題に気がつき、次時や次の単元に「～していきたい」と意識して取り組む児童は、少数である。</p> <p>○発表の単元では、何度も繰り返し、自分の発表をALTや専科に見せに来て、よりよい発表になるように主体的に活動する児童も見られた。</p>

②第6学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○身近で簡単な語を聞いたり、日常会話を聞いたりして、その意味を8割以上が理解している。目標値を上回っているため、概ね良好といえる。</p> <p>○アルファベットの読みに関しては、目標値を上回っている。書きに関しては、大文字は目標値を上回っているが、小文字は下回っているため、区別ができていない児童がいる。</p>	<p>○目標値、区、全国の平均正答率を上回っているため、概ね良好といえる。</p> <p>○日常に関する対話を聞き、目的や場面、状況などを推測する問題で、目標値を下回っている問題もある。</p>	<p>○目標値、区、全国の平均正答率を上回っているため、概ね良好といえる。</p>

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第5学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○既習事項や新出表現などを理解できるよう、デジタル教材やALTを活用し、十分に音声を聞かせ、インプット量を多くして、定着を図るようにする。</p> <p>○日常生活に関する身近で簡単な事柄について自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、相手に聞いたりすることができるように、対話を増やし、話すことへの抵抗感をなくす。</p> <p>○アルファベットに関しては、学習の単元の中に取り入れるようにして、段階的に定着できるようにする。</p>	<p>○友達とやり取りしたり、発表したりする時に、相手意識をもって伝え合うことができるように、場面に応じてどのような工夫が必要かを考え、表現できる力を高められるようにする。</p>	<p>○児童が聞いてみたい、話してみたいと思う目的や場面、状況を設定し、単元のゴールを提示することで、見通しをもって活動できるようにする。</p> <p>○1時間の学習の振り返りを行い、次時への課題をもたせられるようにする。また、書く際には、視点を与える。</p>

#### (2) 第6学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○既習事項や新出表現などを理解できるよう、デジタル教材やALTを活用し、十分に音声を聞かせ、インプット量を多くして、定着を図るようにする。</p> <p>○「書くこと」に関しては、音声に十分に慣れ親しませ、音と単語を結びつけられるようにし、丁寧に書き写すことができるようにする。</p>	<p>○既習事項を十分理解した上で、活動できるように友達とのやり取りの場面を多く取り入れるようにする。</p> <p>○コミュニケーションを行う場面や目的を明確にし、既習表現を使ったり、新出表現の意味を推測したりする場の設定をする。</p>	<p>○児童が聞いてみたい、話してみたいと思う目的や場面、状況を設定し、単元のゴールを提示することで、見通しをもって活動できるようにする。</p> <p>○1時間の学習の振り返りを行い、次時への課題をもたせられるようにする。また、書く際には、視点を与える。</p>